

第二節 水雷艇、驅逐艦、掃海艇、潜水艦

我國ニ於ケル水雷艇ノ嚆矢ハ明治十三年十一月横須賀造船所ニ於テ組立進水シ翌十四年五月竣工セル
 第一水雷火船或ハ水雷船ト稱セルモノナルガ明治二十二年小鷹竣成シ始メテ水雷艇ノ呼稱ヲ見ルニ至
 リ茲ニ該指揮官ヲ艇長ト稱セリ 而シテ職名ハ同年水雷隊ノ創設ト共ニ水雷隊艇長トナリ二十三年八
 月水雷隊配備表ヲ定メ水雷隊内ニ敷設部、攻撃部ノ對立スル頃ヨリ更ニ水雷隊攻撃部艇長トナリシモ
 未ダ其ノ職務權限所掌等ヲ具體的ニ表現セルモノ無カリシガ明治二十八年一月公布ノ水雷團條例ニ於
 テ始メテ左記成文ヲ見タリ

艇長ハ司令ノ命ヲ承ケ乗員ノ紀律ヲ維持シ之ヲ統率訓練シ兵備ヲ整頓シ艇ノ保安ニ任ジ一切ノ艇務
 ヲ掌理ス

而シテ二十九年三月公布セラレ爾後三十八年ニ亘リ數次ノ小改正ヲ經タル海軍艦船條例ニ據ルニ驅逐
 艦水雷艇ニ關シ左記規定ヲ見ル

一、在役驅逐艦ニハ驅逐艦長及尉官ヲ置キ在役艇ニハ艇長及尉官ヲ置ク、在役驅逐艦及在役艇ニ又
 必要ニ應ジ機關士ヲ置ク

驅逐艦長艇長ハ各直屬長官ニ隸シ部下ヲ統率訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ兵備ヲ整頓シ艦艇ノ保安

ニ任ジ其ノ事務ヲ總理ス

尉官及機關士ハ驅逐艦長又ハ艇長ノ命ヲ受ケ服務ス

在役驅逐艦在役艇ニハ前項ノ外海軍兵曹長、同相當官、准士官下士卒ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ
服務セシム

之ヨリ先キ明治三十八年末ヲ以テ第一乃至第五號潜水艇竣成スルト共ニ潜水艇隊條例ノ發布ヲ見シガ
潜水艇職員ニ關スル規定ノ内容ハ概ネ水雷艇職員ニ關スルモノニ準ゼリ
大正五年制定ノ艦船令中ニハ左記規定ヲ見ル

一、驅逐艦、水雷艇、潜水艇ニハ左ノ職員ヲ置ク

(一) 驅逐艦

驅逐艦長、乗組佐尉官、機關佐尉官、特務士官准士官、下士、卒

(二) 水雷艇

艇長、乗組尉官、特務士官、准士官、下士、卒

(三) 潜水艇

艇長、乗組佐尉官、機關佐尉官、特務士官、准士官、下士、卒

二、驅逐艦長及艇長ハ各直屬上官ニ隸シ艦長ニ關スル前諸條ノ規定ニ準ジ服務ス

乗組將校、機關將校及將校相當官ハ驅逐艦又ハ艇長ノ命ヲ承ケ服務シ首席機關佐尉官、首席軍醫、首席主計ハ軍艦ノ夫レニ準シ機關長、軍醫長又ハ主計長ノ職務ヲ行フ

大正八年三月改定艦船中ニ左記ヲ見ル

一、艦艇ニ左記職員ヲ置ク

(一) 軍艦(別記)

(二) 驅逐艦 驅逐艦長、航海長、砲術長、水雷長、機關長、分隊長、乗組

(三) 潜水艦 潜水艦長、航海長、水雷長、機關長、分隊長、乗組

(四) 掃海艇 掃海艇長、乗組

二、驅逐艦及潜水艦ノ航海長、砲術長、水雷長等ハ驅逐艦長潜水艦長ノ命ヲ承ケ各軍艦相當職ノ規定ニ準シ服務ス

(其ノ他ノ諸職ニ就テハ前掲ト大差ナキニ付略ス)

即チ本改定ニ依リ驅逐艦、水雷艇及潜水艇職員ノ職務ノ就中職務執行者ニ關スル件ヲ明確ナラシムル爲從來ノ軍艦ニ於ケルト同一職名ヲ附與セル點ヲ特徴トス

同年八月達第百十一號ニ依リ從來ノ軍艦職員勤務令ヲ廢シ新ニ艦船職員服務規程ノ制定ヲ見シガ茲ニ始メテ職員勤務ニ關シ艦船全般ニ亘ル規程ヲ見タルモノニシテ水雷艦艇ニ關シテハ左記準據事項ヲ定

メタリ

驅逐艦長、潜水艦長、掃海艇長、特務艇長等ハ艦長ニ關スル規定ニ準ジ其ノ他ノ職員ハ副長以下軍艦諸職員ニ關スル規定ニ準ジ服務スベシ

驅逐艦（水雷艇、潜水艇）ノ艦内編制ニ關シテハ特種ノ單行法規ヲ見ズ左記ニ據リ大艦ノ夫レニ準ジ所要ノ編制ヲ行フ如ク指定セラレアリ

一、明治四十二年制定艦内編制規程中ニ左記條項ヲ見ル

(一) 艦ノ大小、構造、兵裝、艤裝等ニ據リ本規程ニ準據シ能ハザル場合ニハ適宜斟酌スルコトヲ得

(二) 下士卒全定員五十名未滿ノ軍艦並ニ驅逐艦、水雷艇陸上團隊部等ニ在リテハ適用シ得ル範圍ニ於テ本規程ヲ準用スベシ

二、大正八年改定艦内編制令中ニ左記ヲ認ム

(一) 艦船ノ大小、構造、兵裝、艤裝、乗員ノ多寡等ニ依リ本令ヲ適用シ難キ場合ニ於テハ適宜之ニ準據シテ其ノ編制ヲ定ムルコトヲ得

(二) 小艦及軍艦以外ノ艦船ニ於テハ必要ニ應ジ一部ノ科ヲ他ノ科ニ合併シ又ハ之ヲ置カザルコトヲ得